1994年1月1日 社団法人長崎青年協会会報 第175号

NYA

社団法人
長崎青年協会憲章

我々は会員の団結と
相互扶助の精神の基に
自己の建設と
会員の親睦を図り
もって地域社会の発展に
寄与する事を目的とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

社団法人 長崎青年協会

25周年記念新春特別号

■本年度スローガン

ハートが ちからに
行動が ちからに

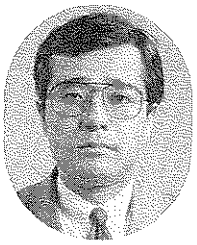
NYA press no.175
January 1994

1

発行／長崎市魚の町7-7
(社)長崎青年協会
会長 森 保博
編集／広報委員会
広報委員長 伊藤克樹

創立／昭和44年3月1日　社団法人設立/昭和59年3月23日

発刊のことば



社団法人 長崎青年協会 会長　森　保博

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、御家族共々よいお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、㈳長崎青年協会が創立25周年を迎え、その記念事業の一環として記念誌が発行されますことを、会員の皆様とともに祝福したいと存じます。

昭和44年に７名の発起人で創立され、この25年を経た今日、会員数103名ＯＢ数73名を擁するまでになりました。これも一重に諸先輩並びに会員諸兄の御努力と、今日まで青年協会を支えていただいた多くの市民の皆様、関係諸団体の方々の暖かい御支援、御厚情のたまものと深く感謝いたします。

本年は25周年目ということで「ハートがちからに、行動がちからに」をスローガンに、会員一同の結集のもと「大運動会」、青少年育成事業として「'93大好き長崎なるほどセミナー」、障害者と健常者が一体となって行うスポーツ「風に想いを、ふうせんバレーボールふれあいＩＮ長崎」、おくんちをサイドから盛り上げる「みんなで盛り上げよう長崎くんち」等々の25周年記念事業を推進してまいりました。

今、25年の歴史をかえりみて、創立以来先輩達が築かれた堅実な道、協会の歴史、協会の体質を大切にして、協会のモットーである歩く事業、手をよごす事業を積極果敢に実行して、感動とふれあいを大切にした事業を私達は行っていきたいと思っております。そして長崎を思う長崎青年協会として、地域社会の発展に少しでも寄与することができれば幸いと存じます。

今後も難しいことを並べるより、まずは実行してみる事をモットーに考え、さらなる発展を期して努力を重ねてゆく所存でございますので、先輩諸兄はじめ関係諸団体の皆様の今後ますますの御指導、御鞭撻をお願い申し上げ、25周年記念誌に関係された皆様に紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

1993年度　社団法人　長崎青年協会組織表

◎は委員長
○は副委員長

直前会長：船越正治

会長：森保博

監事：劉済才、岡村一憲

25周年担当理事：桑田啓伍

事務局長：金田芳裕

総務担当副会長：渡辺秀孝

総務
◎永田 吉朗
○木下 政幸
平山 英則
広瀬 健司
渡辺 聡
梅田 憲
小泉 寛治

例会
◎田川 俊幸
○原 喜一郎
山下 一正
木屋 祐輔
松田 広志
中川 常晴
池田 佳央
船越 浩信
下田 千里

広報
◎伊藤 克樹
○渋谷 晃
清水 昭雄
馬場 隆幸
下釜 一彦
濱崎 俊哉
鵜柴 英俊
茂山 智廣

会員担当副会長：井上章

研修
◎松島 孝之
◎田中 潤介
田中 裕人
松本 貞臣
松尾 好人
吉田 啓二
井上 貴文
蓑原 一隆
金ヶ江 忠
末石 景一

会員開発
◎丸尾 隆
○石田 則広
嵩下 恭一
溝口 章彦
河村 賢治
板倉 和人
寺本 正弘

会員交流
◎岡田 康信
○川原 哲也
新井 正実
倉田 和彦
村岡 功志朗
木下 拓也
河間 幸弘

事業担当副会長：新ヶ江憲和

特別事業
◎和田 正信
○船津信三郎
張 仁春
渡部 芳信
林田 秀夫
一ノ瀬敦朗
酉崎 達也
田川 菊矢
川口 要治

青少年育成
◎合六 忠
○白山 光男
沼里 勉
福田 増幸
猿渡 卓
廣田 百利
坂田 芳徳
峰 章二

国際
◎荒内 賢治
○円能寺 隆
辻丸 佳憲
馬見塚純治
渡部 一夫
池邉 孝一
片江 豊
中山 一郎

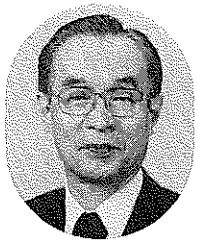
企画担当副会長：城谷富好

企画
◎田川 清浩
○湯藤 正典
三根雄次郎
中谷 寛
松尾 浩
増崎 進一

地域社会
◎大塚 一広
○山口 丈司
岩満 克弥
池田 都志
上戸 実
小坂初比郎

地域事業
◎櫻井 俊郎
○平田 雄一
中村 善人
沖迫 司
梁瀬 徳則
吉田 正幸
西口 勝治
中山 実

祝　辞



長崎県知事　高田　勇

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。会員の皆様には、御健勝にて新しい年をお迎えになられたことと存じます。

また、長崎青年協会が創立25周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

長崎青年協会は、昭和44年に設立以来、常に若い情熱と意欲をもって地域社会の発展に貢献してこられました。これはひとえに、会員皆様が力を合わせ、助け合い、日々努力を重ねてこられた成果であり、深く敬意を表する次第であります。

また、文化財清掃、留学生との交歓会、おくんち広場の開催、会員の自己建設のための研修会などの事業を実施され、明るく住みやすい街づくりのため活発な活動を展開しておられますことは、地域の方々の共感を得ているところであり、大変心強い限りであります。

今日、地域経済社会を取り巻く環境は、技術革新や情報化、国際化の進展、高速交通網の整備など大きく変化しており、ゆとりのある豊かな生活の実現が求められております。

県下各地においては、郷土色を生かした地域づくりが積極的に展開されており、県としましても、本県の特色と個性を強く打ち出し、市町村、県民の皆様と一体となって「美しく、楽しく、たくましいふるさとづくり」の達成のため、最大の努力を傾けているところであります。

どうか、会員の皆様方には、創立25周年を新たな契機として、今後とも地域社会の発展に貢献されますよう大いに期待いたしております。

終わりに、長崎青年協会の今後ますますのご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

祝　辞

長崎市長　本島　等

平成6年の新春を迎え、謹んで年の始めのご祝詞を申し上げますと共に、㈳長崎青年協会の輝かしい創立25周年を心からお祝い申し上げます。

本協会は、数名の有志によって設立されて以来、会員相互の親睦を図りながら、郷土長崎の若者らしく地域の経済文化の発展に寄与するため、様々な活動に情熱を注がれてこられました。現在では100名を超える会員を擁し、長崎地区に確固たる基盤を築いておられますことは、誠に慶賀にたえません。

これまでの活動には、文化財の清掃、募金活動、障害者と健常者の交流を目的としたふうせんバレーボール大会の開催等の福祉奉仕事業、伊王島ふれあい宿泊体験セミナー等の青少年育成事業などがありますが、その他にもド・ロ神父記念館のオルガンの音色をデジタル録音して同記念館へ寄贈されるなど、大変ユニークな活動を展開してこられました。

皆様方が常に市民のために温かい心づかいをもって奉仕されておられますことに、深く感銘しております。市民を代表しまして厚くお礼申し上げます。

ここに謹んで結成25周年をお祝いし、今後とも市民のため、地域の社会・経済・文化の発展伸張にますますご貢献くださいますよう、ひたすらお願い申し上げます。

また、会員皆様のご多幸と長崎青年協会のますますのご繁栄を心からお祈り申し上げまして私のお祝いの言葉といたします。

協会のあゆみ一覧

年度	年	会長名	会員数	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	昭和44年	小野喜三郎	21名						
2	昭和45年	三浦　勝太	48名(内女性11名)			・長崎開港400年記念チャリティーダンスパーティ開催			・ボーリング大会開催
3	昭和46年	永島　正道	55名(内女性13名)					・ナルシーソ・イエペスギター独奏会主催	
4	昭和47年	久保　征幸	28名				・青年協会ハタ揚げ大会		
5	昭和48年	池本　敏典	31名	・福江市久賀島大火の救援活動	・定期例会 ・臨時総会	・第4回青年協会ボーリング大会 ・3月定期例会 ・3分間スピーチ始まる	・明星園の子供達50名、稲佐山ハタ揚げ大会に招待		
6	昭和49年	金子原二郎	50名						
7	昭和50年	平野　晴一	54名						
8	昭和51年	(前期) 高野　一広 (後期) 宮路　丈玄	54名						・山口修ギターリサイタル(長崎市民会館文化ホール)
9	昭和52年	宮路　丈玄	54名						
10	昭和53年	三浦　勝太	75名			・プロ野球オープン戦並びに野球教室に市内小中学生を無料招待	・10周年チャリティーゴルフ開催、収益金52,000円を寄付。 ・市内老人ホームにあんま器3台寄贈		

初年度～10年度

7月	8月	9月	10月	11月	12月
			• 長崎国体参加の若手県役員団協会員の乗用車4台（会員の運転にて2日間）提供し感謝される • 郷土史研究会 • 政治経済研究会発足。	• 第24回国民体育大会長崎市実行委員会より感謝状	
• 「青年の船」に5名参加	• 夏季レクリエーション（川原海水浴場にて）		• ボリショイサーカスに施設の子供達を招待		
• 佐賀県松浦郡呼子町へ旅行		• 文化財清掃（高島秋帆）（後藤）（西川如見）（薬師寺） • 福祉基金チャリティーボーリング	• 「愛の募金活動」に参加	• 清掃箇所に説明案内板寄贈	
		• 長崎敬老観劇会（東千代之介一座）市内の老人7,200名無料招待		• 文化財清掃	• 日見やすらぎ荘にて、もちつき大会
	• 明星園の子供達60名、市営プールへ招待	• やすらぎ荘 • 延命園の老人80名をヘルスセンターへ招待		• 文化財清掃（会員以外に高校生、自治会、一般市民の協力がある）	
				• 文化財清掃	• 開成学園にてもちつき大会
		• 敬老の日に老人ホーム及び独居老人にタオル4,000本寄贈	• 明星園へスポーツ用品寄贈	• 文化財清掃（新たに「茂木道無縁」）	• 開成学園にてもちつき大会、子供達とソフトボール大会
				• 文化財清掃	• 老人ホームにてもちつき大会 • 事務局設置（元船町）

重大ニュース

昭和44年
7月　アポロ11号月面着陸、人類月に立つ「静かの海」へ、アームストロング，オルドリン
8月　松竹の人気シリーズ「男はつらいよ」（山田洋二監督、渥美清主演）の第1作公開。
10月　巨人の金田正一投手が日本プロ野球初の通算400勝を達成。

昭和45年
3月　待った、疲れた、見られなかった…高度成長のあかし大阪万博が開幕
4月　さよならビートルズ　LP「レット・イット・ビー」を最後に解散
11月　三島由紀夫、自衛隊市ヶ谷駐屯地に乱入、演説後割腹自殺…

昭和46年
4月　ボウリング大ブームで民放テレビ各社が6本のボウリング番組放映。
9月　即席めん時代へ　丼もナベもいらない「カップヌードル」登場
12月　円、大幅切り上げ　1ドル360円から308円時代　到来

昭和47年
2月　札幌冬季オリンピック開幕　日本快挙！70m級ジャンプで金、銀、銅メダル独占
2月　あさま山荘から連日、実況生中継　連合赤軍、機動隊と銃撃戦
9月　日本、中国と国交回復　田中・周両首脳、「戦争状態終了」の共同声明に調印

昭和48年
4月　常に20世紀美術の前衛であり続けたパブロ・ピカソ、死去
10月　巨人、阪神くだし最終戦で逆転V9、王貞治、三冠王に
11月　オイルショック、庶民ひしひし省エネ・節約のかけ声、世界をめぐる

昭和49年
3月　超能力ブームの火つく　ユリ・ゲラー来日テレビでスプーン曲げ
7月　北の湖、横綱に昇進　21歳2ヵ月異例のスピード出世
12月　仏映画「エマニエル夫人」が公開、大ヒットとなる。

昭和50年
2月　イギリス保守党史上初の女性党首にサッチャー就任
12月　3億円強奪事件（68年12月10日）が時効。捜査費用9億7000万円

昭和51年
2月　米上院で「ロッキード事件」発覚全日空への売り込みに絡む贈賄暴露
5月　植村直己、北極圏1万2000Km走破オーロラのもと　ひとり犬ゾリに乗って313日…
12月　「およげ！たいやきくん」がレコード史上空前の440万枚を売る

昭和52年
7月　ニューヨーク、停電パニック、観覧車宙づり、手術ストップ、商店の略奪横行…
9月　ライトスタンドに　756号！王貞治、ホームラン世界一を達成

昭和53年
1月　フォルクスワーゲン社42年間のロングセラー「かぶと虫」の生産中止
10月　世界マッチプレー選手権青木功が優勝「世界のアオキ」出発
12月　爆発的人気ピンクレディー「U・FO」レコード大賞「サウスポー」歌謡大賞さらに「紅白歌合戦」の出場をける

協会のあゆみ一覧

年度	年	会長名	会員数	1月	2月	3月	4月	5月	6月
11	昭和54年	川添　吾郎	54名	・定時総会			・会員懇親会		・チャリティーダンスパーティ ・家族懇親会
12	昭和55年	浜崎　昭	86名	・定時総会 ・新年懇親会					・家族懇親会
13	昭和56年	井川憲太郎	77名				・第1回長崎青年協会ゴルフコンペ	・第1回少年野球教室	・家族懇親会室内体育祭
14	昭和57年	金子　卓司	85名				・県民の森にて春のレクリエーション	・第2回少年野球教室	・環境週間の一環として、アキ缶キャンペーンに参加 ・家族懇親会
15	昭和58年	勝本　博文	77名	・明社協理事として、新春名刺交換会	・長崎平和推進協会設立総会に参加	・北方領土返還要求県民会議パレードに参加		・楽老会より感謝状（女の都山荘）	・協会運動会（網場水族館）
16	昭和59年	太田　勝良	80名				・社団法人設立記念パーティ		・長崎アーバンルネッサンス会議出席
17	昭和60年	吉野　信義	96名	・臨時総会（チサン）		・卒業者を送る夕べ	・定時総会（チサン）		・厄入懇親会
18	昭和61年	小川　一朗	93名	・臨時総会（パトリエ21） ・新春懇親会		・卒業者を送る夕べ	・定時総会（東映イン長崎）		・厄入懇親会
19	昭和62年	森山　茂	90名	・臨時総会（長崎東映ホテル）		・卒業者を送る夕べ	・定時総会（長崎東映ホテル）		・厄入懇親会
20	昭和63年	江村　大洋	107名	・臨時総会（ホテルニュー長崎）		・卒業者を送る夕べ	・定時総会		・厄入懇親会

11年度～20年度

7月	8月	9月	10月	11月	12月
	・愛の街づくり実行委員会	・新人研修セミナー ・臨時総会		・文化財清掃 ・チャリティーバザー	・もちつき大会（女の都山荘）
・新人研修「立山長崎青年会館」	・市民大清掃	・全体研修「月光の里」 ・臨時総会 ・会長選挙		・「みんなで築こうきれいな長崎」338自治会へ700個ゴミ籠無料配布。	・もちつき大会（女の都山荘）
・新人研修セミナー	・長崎市民大清掃参加	・全体研修	・「みんなで盛り上げよう長崎くんち」インド魔術団を長崎に招く（市内の老人、福祉施設の児童1,500名招待）	・文化財清掃（官梅家、高木家など）	
	・野母崎の「国民宿舎亜熱帯」にて全体研修			・文化財清掃（高島秋帆旧宅に記念植樹）	・もちつき大会（女の都山荘）
・新人研修会（グランドホテル） ・山陰水害義援金募金活動（521,000円）	・市民大清掃参加	・全体研修会（ヤタロウ・イン）		・文化財清掃 ・ゴミ籠380個配布 ・協会15周年記念祝賀会	・もちつき大会（女の都山荘） ・忘年懇親会
・チャリティーバザー	・市民大清掃に参加 ・協会家族懇親会（ニュー長崎ホテル）	・チャリティー収益にて、老人ホームへカラーテレビ寄贈	・長崎くんち共和国（瓊の浦公園） ・長崎県国際青年実行委員会出席	・文化財清掃（高島秋帆旧宅）	・もちつき大会（女の都山荘） ・忘年懇親会
・国際青年年（ＩＹＹ）大清掃参加 ・チャリティーバザー	・家族懇親会（祝崎郷三浦海水浴場） ・経営セミナー	・恵の丘長崎原爆ホームに、ビデオデッキ寄贈。 ・全体研修	・くんち広場（江戸町公園）	・文化財清掃（稲佐外人墓地） ・ソフトボール大会 ・ＩＹＹ国際フェスティバルに参加 ・臨時総会（ナサン）	・もちつき大会（女の都山荘） ・忘年懇親会
	・市民大清掃に参加（長崎港） ・家族懇親会（雲仙国民休暇村）	・全体研修（しんわの森）	・おくんちラント	・文化財清掃（小管そろばんドック） ・臨時総会（東映イン長崎）	・チャリティーもちつき大会（親和銀行浜町支店前） ・忘年懇親会
・長崎海のフェスティバル	・市民大清掃 ・全体研修	・特別養護老人ホーム「長崎の家」1日園長	・おくんちパーク（6日前夜祭、施設の子供達を招待） ・ファミリンピック'87に参加	・文化財清掃（坂本外人墓地） ・臨時総会（長崎東映ホテル） ・ソフトボール大会	・もちつき大会（老友荘） ・忘年懇親会
・新人研修 ・留学生の集い ・海のフェスティバル	・サマーフェスタ長崎			・文化財清掃（高島秋帆旧宅） ・ソフトボール大会 ・教育委員会より表彰	・もちつき大会 ・忘年懇親会

重大ニュース

昭和54年
6月　アジア初の東京サミット開催OPECの石油値上げに、先進国　輸入抑制で対抗
7月　ステレオが歩いた!?新発売の「ウォークマン」大ヒット商品に
12月　インドで貧民や孤児を救い続ける「カルカッタの聖女」マザー・テレサにノーベル平和賞

昭和55年
2月　「動物愛護」のアメリカ人が漁民の網を破り岩岐イルカを逃がす
5月　日本プロ野球史上初ロッテの張本勲3000本安打を達成
12月　ニューヨーク22時50分凶弾、ジョン・レノン（40）の魂を貰く！

昭和56年
2月　ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世、初来日　核兵器廃絶と軍縮をアピール
7月　ウルフの時代到来　千代の富士第58代横綱に昇進
11月　62年ぶりの新種の鳥「ヤンバルクイナ」沖縄の原生林で発見

昭和57年
2月　日航機が異常操縦で東京湾に墜落、死者24人。精神分裂病の機長が「逆噴射」
8月　美しくも奔放…結婚もオスカーも3度、女優Ｉ・バーグマン逝く（67才の誕生日もこの日）
12月　米で初の人工心臓埋め込み手術「人類のためなら」と61歳の患者が勇気ある挑戦

昭和58年
4月　ＮＨＫ「おしん」放映、忍耐と辛抱に朝のお茶の間涙をさそう（連続テレビ小説史上最高の視聴率を記録）
9月　大韓航空機、謎の領空侵犯サハリン上空で撃墜され269人死亡
10月　三宅島で大噴火流出した溶岩で500棟のうち413棟が全焼

昭和59年
2月　植村直己、マッキンリー登頂のあと消息を絶つ。必死の捜索も奏効せず
5月　「毒入りグリコ製品」で、かい人21面相、無差別脅迫
7月　ロス五輪開幕、初の民間運営が大成功、カール・ルイス、陸上で4冠

昭和60年
3月　チェルネンコ書記長、死去、後任には最年少幹部ゴルバチョフ
7月　「ウイ・アー・ザ・ワールド」の大合唱アフリカの飢餓救援コンサート開催（コンサートに集まった救援資金は約165億円）
11月　死者2万5000人コロンビアで今世紀最大の火山災害（ネバドデルルイス火山）

昭和61年
1月　「チャレンジャー」爆発！砕かれた宇宙開発の夢、7人全員死ぬ
4月　チェルノブイリ原子力発電所、爆発！放射能パニック、全世界へ波及
11月　三原山、209年ぶり大噴火　火柱、天を突き…まっかな溶岩流、元町へせまる

昭和62年
2月　ＮＴＴ株、狂騰160万円でやっと初値

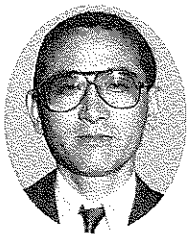
第21年度

平成元年（1989年）

会員数 104名

スローガン

「地球的な視野と積極的な行動そして融和」



会長　野上林八郎

社団法人長崎青年協会創立25周年おめでとうございます。

会員皆様のご努力の賜とお祝い申し上げます。

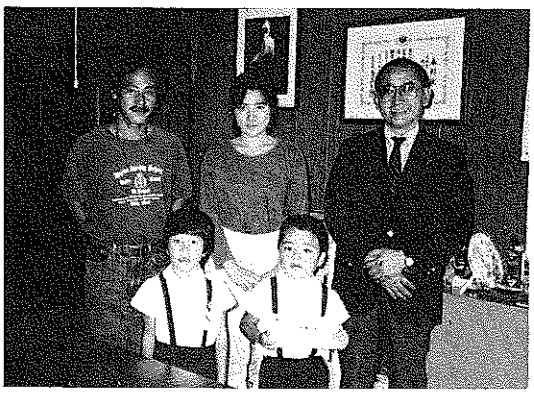
私にとって青年協会は、この上ない異業種交流の場であり、自己研鑽の場であったと思います。いろいろ大変なこともありましたが、十人十色のものの見方、考え方があり、夫々切磋琢磨しながらやってきた協会活動の全てが、今の私の血となり肉となっているのだと痛感いたします。

今後共、我が良き故郷長崎の文化、経済の発展と、人づくりの場として、協会の一層のご活躍を期待致します。

タイアップ事業の展開

'89サマーフェスタながさき

「長崎市制100周年」、次年度は「長崎旅博覧会」ということで「'89推進理事」「地域活性委員会」を組織し、市に対し、又県に対して、協力、提案をしていく方向づけがなされた年であると思います。6月にはパンダサーカスに市内の3つの養護施設の子供たちを招待し、7月には、アジアを考えるというテーマで「留学生の集い」が行われました。又、7月には「海のフェスティバル」8月には「サマーフェスタ長崎」に参画し、10月には、'89おくんち広場に於いて、マリア園、明星園、浦上養育院、白菊寮の子供達を招待しての前夜祭が行われました。11月には'90長崎旅博プレイベント（右記に記載）が盛大に開催されました。青年協会を広く対外的にアピールし、又、行政側との話し合いをもち、青年協会の未来の方向性を見出すきっかけとなった年ではなかったかと思います。



明星園にて

'90長崎旅博覧会プレイベント

「文化の日 清掃」

11月3日（文化の日）は、例年文化財清掃を行ってきましたが、翌年の旅博にむけて、「文化の日清掃」ということで、青年協会・長崎「旅」博覧会協会・旅博を支援する市民の会が中心となり旅博の6つのゾーンの清掃を市民の皆様と実施いたしました。当協会は、賑わいのゾーン・やすらぎのゾーン、であいのゾーンの担当で会場の磨屋小学校グランドには、高田知事をはじめ、本島市長、

挨拶される高田知事

秋空のもと皆さん長崎のために一生懸命清掃に取り組んでいました。清掃中に気づいたことですが、目に付いたゴミの中に、たばこの吸いがら、空カン、お菓子の袋などが多く見られ、すべてが、我々が普段何気なしに捨ててしまっているものばかりということです。一人一人がモラルをもって、自分達の街であるということを忘れずに心がけていきたいと思いました。

熱心に注意事項を聞く参加者

集められたゴミの山

商工会議所会頭、ミス旅博、旅博ダンシングチームの参加もあり、盛り上がりの中、無事清掃を終了しました。高田知事のあいさつの中「旅博に向けて皆んなで街をきれいにし、歓迎の心を持ちましょう」ということで、旅博開催には、長崎市民一人一人の協力が必要となります。清掃には約1,500名の参加があり、各ボーイスカウト、ガールスカウトの方々その他一般の方々の参加もあり、

清掃終了後にアンケートに協力していただきました

清掃終了後、参加された方よりアンケートをいただき、又この日は、「ちゃんぽん麺の日」ということで、長崎県生麺組合連合会の皆さんより、「ちゃんぽん麺」のプレゼントがありました。皆さんに喜んでいただいたようです。

第22年度

平成2年（1990年）

会員数 114名

スローガン

「明日の長崎を築くための手作りの変革」

会長　田代　博昭

「激動・変革」の90年代を迎え、青年協会を取り巻く環境の変化や活動内容の変化にともない、各人の活動領域をどれくらいひろげていけるかとして、《手作りの変革》をテーマに掲げて22年度会長に就任させていただきました。

新規対外事業では、長崎旅博覧会開催年に際し、“旅博おもしろ歴史クイズ”を企画したことで、メンバーには多大なる苦労をおかけましたが、大盛況のうちに終了することができました。この事は、我々は常に挑戦の姿勢をもち続けていることを内外に示すことができました。また、会費負担増の件については、船越事務局長を中心としたメンバーが会員間との話し合いを根気強く積み重ねてくれたことなど、いろんな形で会員が団結を保つことができたと思います。

このほかにも、100％例会・留学生の集い・家族懇親会・くんち事業・他にもいろんな事業を通して、各委員長やメンバーの苦心や努力に心より敬意をはらい、友情や協力に心より感謝申し上げます。

今年からＯＢとなり、また違ったかたちで青年協会活動を見聞きしておりますが、真面目に事業に取り組み明るく楽しく行動し、協力しあっている現役の姿からは、新たな友情が芽生えていることが感じられ、今後ますます飛躍されていくものと期待しております。

例会出席100％達成

５月21日に行われた例会において、今までに類例のない例会出席100％の金字塔が打ち立てられました。これは渡辺例会委員長の活動方針の基本事項である、出席率の向上、魅力ある例会作りの第一歩として、例会委員会の努力が早くも成果として実を結んだものであります。

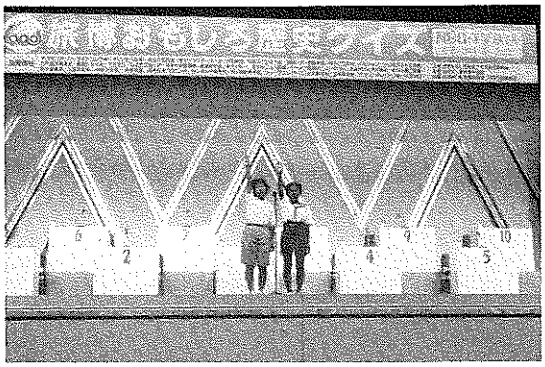
例会委員会は、「何故例会に出席できないのか？」を探るため、個人別例会出席率などの基礎調査を行い、出席率アップの対策として、その手始めに総務担当三委員会による合同委員会を開き、まずは総務担当委員会から意識の向上を図り、やらねばという気持ちで100％出席を確認し、次に調査により出席率が悪い会員に対しては、出席を促すためのアタックを幾度も繰り返し行うなどの活動の積み重ねをし、その結果として全会員が例会に対する意識をもって参加してくれたからこそ、成し遂げられたものであり、全会員の努力の成果であると委員長は語ってくれました。

また、当年度当初の例会を、100％例会として位置づけしたのは“活動の基本は例会にあり”の理念の基に、100％例会を成功させることのできる勢いを持って、今年一年間を走りつづけたいとの願望を込めて行ったとのことであります。

この例会を機にして、全会員が“やろうという気持ち”から“一歩踏み込んで、やるぞという気持ち”へ変革され、例会で燃え、事業にも燃える炎となり、すばらしい活動へ発展していく事でしょう。

旅博おもしろ歴史クイズ大成功

８月12日、長崎青年協会主催で“旅博おもしろ歴史クイズ”が開催されました。前日の夕方より会場設営が開始され、当日は午前中リハーサル等一応の最終準備が完了した午後12時頃より参加者が入場を開始し、約650組1,300名の参加者で会場内は、熱気に包まれました。



ペアでの参加のため、会場内には親子や恋人、友達同士など、さまざまなペアがあり、いままで長崎市内ではこれほどの人を集めたクイズ大会はなかったので、スタッフは皆、始まる前まで緊張していたようでした。

大会は田代会長挨拶、それに続いて高田長崎県知事の挨拶のあと、さあいよいよ旅博おもしろ歴史クイズのスタートとなりました。クイズは○×形式で始まり、それを何度か繰り返し、100組程度回答者を減らしました。その後はゲームあり、早押しクイズありで、最後に10組で決勝戦が行われ、女性同士のペアの方が見事優勝され、ハワイ旅行を獲得されました。又、参加者全員には知事のご好意により参加賞としてTシャツのプレゼントがありました。なおこの模様は、後日ＮＢＣテレビで放映されました。

このイベントは近年では最大級のものであり、これが大成功を収めたということは、我々青年協会の自信となり、今後の事業に対する意欲を新たにしたように感じました。

旅博おもしろ歴史クイズを振り返って

大　塚　一　広

青年協会が、長崎旅博覧会協会へ提案したウルトラ・クイズが実行されることになり、私は歴史研究会の資料の中から問題作成を担当することになりました。諸説ある文献よりも、実際に街の中での学習を基にしたクイズを心掛け、七ヶ所に分けられた旅博のゾーンを中心とした調査活動から行いました。これまでの読書型から現地調査型への転換は69キロだった体が３ヶ月で54キロになり、周囲の者から「病院へ行って検査してもらえ！」と、検査技師の私が病院を勧められる程ハードなものでした。今回のクイズは、おもしろい話題や歴史の中から『永遠の愛と平和への旅』をテーマに問題の作成を致しました。それ故に原爆の問題も取り入れて構成しておりましたが、一部で誤解を招く等の反省点もありました。しかし、このことにより会員が一致団結して真剣に取り組んだ事が、大勢の参加者の歓声と熱気で会場を一杯にした事よりも重大であったと思います。

優勝決定戦　最後の問題

「私は美しい平和な国に行く」という言葉を残して、70才で帰らぬ人となったのは誰でしょう？

答（シーボルト）

第23年度

平成3年（1991年）

会員数 113名

スローガン

「歴史に学んで未来を語り、築き上げよう長崎の明日」

会長　劉　済才

私が、当協会へ入会したのが、丁度10周年に当たる昭和53年のことでした。雨の中、チャリティーゴルフのスタッフとして参加したことが、今でもよく思い起こすことができます。　あれから15年、当時は最年少だったのが、もうこの25周年の年を最後に、協会のバッチをはずさなければならないようになりました。

私にとっての、17年間に及ぶ青年協会活動は、文字通り、私の青春そのものであり、また生活の一部分として、常に密着していたものでした。

その中で、平成3年に第23年度の会長に就任させていただきました。当初は、前年度が、「長崎旅博覧会」の年とあって、対外事業を押さえて内部充実を図りたいと思ったのですが、それまでの協会活動の目覚ましい発展により、地域社会から多くの期待を寄せられるようになっていたのです。

当時のソ連のゴルバチョフ大統領の来崎に伴う4月の稲佐の国際外人墓地清掃に始まり、5月には、これからの協会活動を理解してもらおうと、新年度懇話会と銘打って、OBを始め、行政、関係団体から多数出席していただき、事業活動などを紹介いたしました。それから、今の子供達へ、私達の手で出きるかぎり、長崎のいい所を教えてあげようと、青少年育成事業、「大好き長崎なるほどセミナー」が、年間を通したシリーズとしては、初めての試みとしてスタートしました。これらは、参加者にも好評で、行政からも高い評価をいただきました。

私は、この長い青年協会活動の中で、計りしれないほど多くの物を得ることができました。その中でも、実感として、声を大にして言いたいのは、心の中までさらけ出せる友が持てたということです。それは、たぶん卒業後も続く人生における最高の友となることでしょう。共に、青春の1ページの辛苦や喜びをわかち合えた者同志として……。

これからも、青年協会は、憲章にのっとった活動を続けていくと思いますが、皆様が卒業する時に、本当にこの会に入会して良かったと思えるよう充実した活動を続けられ、それが、原動力となって、今後、益々青年協会が発展していくことを期待いたします。

大好き長崎なるほどセミナー

本年度のスローガンにある「歴史に学んで未来を語り、築き上げよう長崎の明日」ということで長崎の子供達に学校の授業では学べない、長崎の文化・歴史・芸能・地理などを学び、長崎に愛着をもち、未来の長崎について考えてもらいたいということで、1年間を通した青少年育成事業「大好き長崎なるほどセミナー」が、初めての試みとして、第23年度から始まりました。この「大好き長崎なるほどセミナー」は、参加した子供達に好評で、第24年度、第25年度と、現在も継続事業となっています。

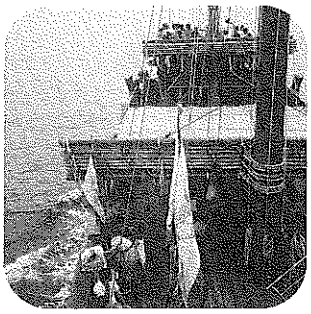
第1回目の「大好き長崎なるほどセミナー」は、①飛帆による体験航海学習・②おくんちセミナー・③文化財清掃・④もちつき・と4つの事業を子供達に体験してもらって、最後に修了セミナーとして子供達に修了証書が渡されました。

①飛帆による体験航海学習

• 長崎の子供達を飛帆に乗せて、長崎港周辺を航海しながら、長崎に関する歴史クイズや長崎港に関する話を聞いたり、写真などでしか知らない長崎の美しさを、自分たちの目で実際に見ることで、再確認できてよかったと思いました。

この飛帆に乗っての体験航海学習は、第24年度の船越会長・第25年度森会長の時には、子供達を飛帆に乗せて、伊王島までの1泊2日の宿泊体験学習として、発展していきました。

②おくんちセミナー



・江戸町公園における青年協会恒例のおくんち広場で、長崎歴史文化協会の宮原先生の御講演の後、セミナーの子供達に、龍踊りの担ぎ手とはやし方の体験をしてもらいました。最初はとまどっていた子供達もいましたが、最後には、全員くんち好きの長崎っ子になっていきました。

③文化財清掃

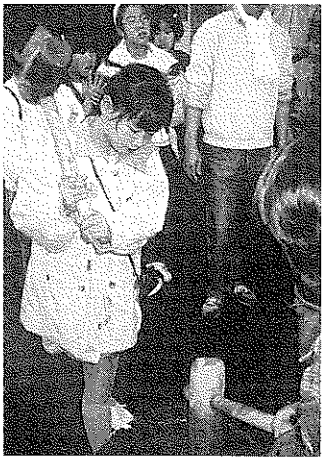
・11月3日、文化の日にセミナーの子供達と一緒に、文化財清掃を行いました。

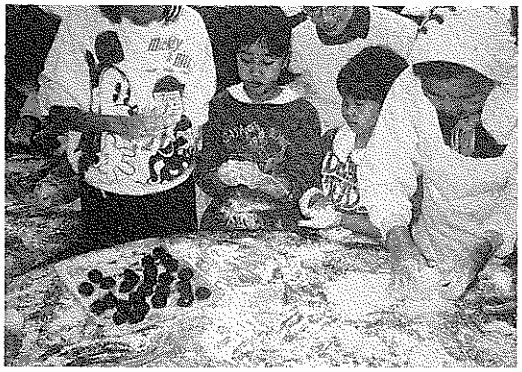
興福寺境内に集合し、文化財の紹介や歴史の話等を聞き、子供はもちろん、大人も熱心に耳を傾け、学校の歴史の授業のような雰囲気でした。

最後に、晧台寺の御住職より講話を頂戴し、大変好評でした。

④もちつき

・女の都の老人ホーム「老友荘」で、青年協会恒例のもちつきをセミナーの子供達に体験してもらいました。もちつきを知らない子供も多い中、青年協会のもちつきのベテランの手解きをうけながら、もちをついたり、「老友荘」の、おじいさん・おばあさん達と一緒になってもちを丸めたりして、年代をこえた交流ができて、大変良かったと思いました。





事業を振り返って

地域事業委員長　岩　満　克　弥

当時の劉会長、金田担当副会長の助言を受け、青少年育成事業として、「大好き長崎なるほどセミナー」を委員会で企画しました。一人でも多くの子供達に長崎の事を知ってもらい、関心を持ち、愛着を持ってもらえたらという思いで始めた事業でした。

市内の広い地域から参加者を募りたいとの考えで、市の教育委員会やＰＴＡ連合会、長崎歴史帆船協会の方々のご協力をいただき何とか形のある事業ができたと思っています。　今年度で3回目を迎えた「大好き長崎なるほどセミナー」も各年の担当委員会の手によってさらに充実し、市民の皆さんにも定着しつつある事業になっているように感じます。

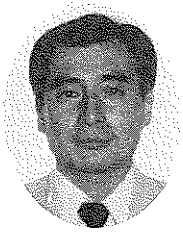
第24年度

平成4年(1992年)

会員数 112名

スローガン

「明日への想像力と独創性そして共生」



会長　船越　正治

バブル経済崩壊の為、不況の兆しがみえだし、政界では金丸事件等で政治不信が増大されていき、就業時間も時短という流れに逆らえず、学校5日制が始まった平成4年でした。

年間を通じて『共生』を合い言葉に、色々な事業の見直し、各会員の資質－意識の向上の改善、他団体とのつき合い方、また、特別メンバーによる未来を語る会でのビジョン造りをやりました。

特に印象に残っている事を述べさせてもらいますと、青年会議所の例会にてネットワーク市民の会の代表として話をした事が残っています。旅博以降何かと続いてきた会の方向性が見えたのではないかと思っています。また我々の事業では6月のハウステンボスでの家族懇親会で参加人数が多かった事や、8月全体研修でのOBを講師とした研修の厳しさ、長崎歴史帆船協会の御協力で伊王島に1泊2日のセミナーを行ったときの子供たちの明るさ。さらに、行ってみて初めてわかる上海への海外研修等が鮮明に頭に残っております。

その他、色々な事業をやってきましたが、思い通りに事業を減らすことができなかった事、また努力が足らずに大量の退会者を出した事が反省として残っています。

前後になりましたが、これからも独自の事業に汗を出しながら一生懸命やっていただきたいと思っています。

家族懇親会（ハウステンボスでの一日）

会員交流委員長　松　本　貞　臣

平成4年6月28日、午前8時、JR長崎駅前高架広場集合。

6月27日は雨でした。そして、私の背中に向かって「明日は雨が1日中降るとてョ」と妻は心配そうに？叫ぶのです。明日の天気予報、1日中『雨』。「そげんことはなか!!　おいが気合いば入れてした時は、いままで全部晴れた!!　明日は絶対晴れる!!」と訳の分からない言葉で自分自身に言い聞かせました。

当日の早朝、曇り空の中、自信を持ってそしてバックの一番奥に折りたたみのカサを持って？家族懇親会の集合場所へ一足先に出かけました。

梅雨の時期の不安はあったのですが、これまでの懇親会の参加者の２倍、約160人以上を目標とし、いかに格安コースができるか、副委員長の丸尾君を始め、松尾好人君、池邊幸一君、渡辺聡君、梅田憲君、石田則広君の会員交流のメンバーと、森担当副会長と共に話し合い、そして調べた結果、この日が一番良いことになりました。さて、雨を心の中で気にかけながら列車は走り出し子供達も奥様方も家族みんな楽しい雰囲気で第一関門はクリヤー。いよいよハウステンボス駅へ到着すると、雨どころか心も空も日本晴れでした。

さあさあ皆さん記念写真を撮りましょう。そして楽しいお食事ですョ。並んで並んで、総勢213人の大移動です。

え、迷子!!　着いたそうそうハプニング等々いろいろありましたが、帰りの列車は、全員無事乗車して、あちらからスヤスヤ、こちらからグーグー。

楽しい家族の思い出作りは、いかがでしたでしょうか。後日奥様方から楽しい懇親会ありがとうございましたと言われまして、卒業する私が一番思い出を作る事が出来ました。会員の皆様有り難うございました。

追伸　翌日は大雨でした。今でも信じられません。

'92大好き長崎なるほどセミナー
飛帆による体験航海開催

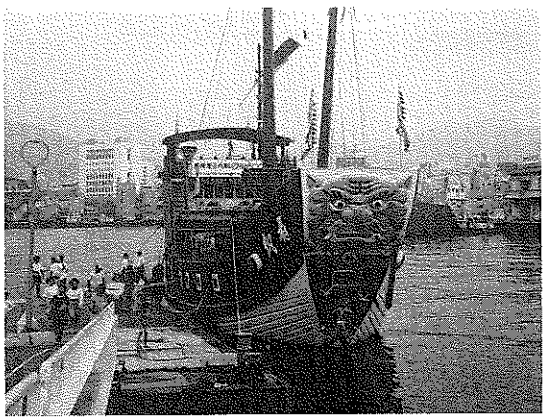
長崎市内の小学４、５、６年生を対象にした「大好き長崎なるほどセミナー」も２年目に入り、本年は長崎の港、文化、歴史、地理等を実際に目で見て触れて、体験学習する事で、将来の長崎を担う子供達に長崎をもっとすきになってもらい、さらに将来の夢を描いてもらいたいという趣旨で飛帆による体験航海が実施されました。

なるほどセミナーを終えて

事業委員長　平　山　英　則

伊王島への体験宿泊に始まり文化財清掃ウォークラリー、もちつき、修了式とあっという間の１年でした。会員の動員、準備等に追いまくられ初期の目的である「体験学習」が充分に実行出来なかった事が残念ですが、大きな事故もなく無事に修了した事を皆様に感謝します。

また、一番嬉しかった事は、セミナーに参加したあるお母様から、お礼の手紙を頂き、「日頃、消極的な息子が、一回り大きくなったようです」との内容が書いてあった事が忘れられません。



第25年度

平成5年(1993年)

会員数 102名

スローガン

「ハートがちからに、行動がちからに」

会長　森　保博

㈳長崎青年協会が創立25周年、社団法人となって10周年の記念すべき年を担当させていただき、大なる責任の重さを感じてスタート致しました。

私は「ハートがちからに、行動がちからに」をスローガンに会員の皆様と共に単に活動の場ではなく人間同志の感動とふれあいを大切に事業に取り組んでいこうと考えました。

そして「こだわりの事業展開」「青年協会風の新しい見直し」「標準化を計る」「研修会の充実」「25周年事業は体当たりで」以上5項目を基本方針として、人の投げたボールをどう受け止め、どう投げ返すか、自己対決をしながら常に未来を見つめて新たな意欲を燃やしていければと思いました。

「大運動会」は会員の団結と親睦を図り「ふうせんバレーボール」は福祉の面で地域社会の発展に寄与することができたのではないでしょうか。

色々な事業を通じて、各方面から青年協会は期待されているのだなあと痛感致しました。

これからも一度決めたらとことんやり抜くこだわりの姿勢で、功績の残る事業ではなく感動の残る事業を推進してさらに発展する事を期待致します。

25周年記念事業

ふうせんバレーボールふれあいIN ながさき　開催

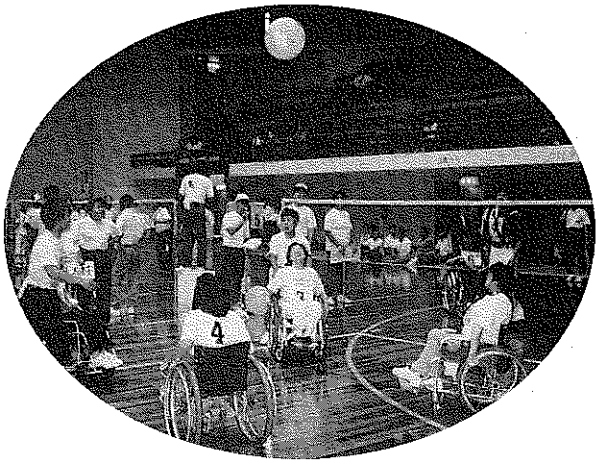
平成5年9月10日と11日の両日、長崎青年協会の25周年記念事業として今年度はじめから着々と準備を進めてきた、ふうせんバレーボール大会および記念講演会が行われました。今大会は、障害者と健常者とのふれあいを求め、「風に想いを・・・・ふうせんバレーボールふれあいＩＮながさき」という名称で、ドリームハートナガサキ・長崎青年協会の主管、ふうせんバレーボール振興委員会の共催、多数のボランティアの方々（国立病院長崎療養所・玉木女子高等学校衛生看護専攻科・活水高等学校・純心高等学校・純心女子短期大学・長崎医療短期大学）の御協力による、県内では初めての試みでした。

10日、伊坂　哲氏による全日本バレーボール代表チームでの体験談やふうせんバレーボールとの出会いのお話に惹きこまれた講演会に続き、11日九州各地から集まった24チームが参加してバレーボール大会が、長崎国際体育館に於いて開催されました。予想以上に高度なテクニックを駆使した白熱したゲームの合間には、障害者、ボランティア、観客、青年協会のメンバーのふれあい体験としてのゲームも行

われました。分刻みのきびしい日程でしたが、担当した地域事業委員会、プロジェクトメンバー、ならびに大会関係者の綿密な準備運営によって、無事滞りなく本大会を成功させることができました。閉会式では選手の皆さんや青年協会のメンバーに目頭を熱くしている人もみられ、ことばでは表わせない感動を多くの人の胸に残した大会でした。

大会を振り返って

地域事業委員長　櫻井俊郎



ふうせんバレーボール・・・これは今年度25周年記念事業である社会福祉の一環として行われ、会員のみならず幾多の人々の心に残るスポーツであり事業であったことでしょう。思い起こせば無の状態からとりかかりドリームハートナガサキの皆様と出会い、チーム作りから始まり大会開催へとこぎつけました。開催月を2月から9月に繰り上げ、思った以上に大変であると同時にあせる気持ちで「大丈夫だろうかうまくいくだろうか」と思いました。大会当日は関係者及びスタッフの協力のもと非常に盛り上がり大成功に終わったと思います。参加者の皆様の喜びと楽しみが伝わり、またスタッフが一生懸命頑張り、そして自分自身いい体験をさせていただいたと思い感動いたしました。このような心に残る体験ができることは、もっともっと地域に密着させ、今以上に認識してもらうことが必要だと思います。次年度も開催予定ですので、皆様で今年度以上に盛り上げていきましょう。

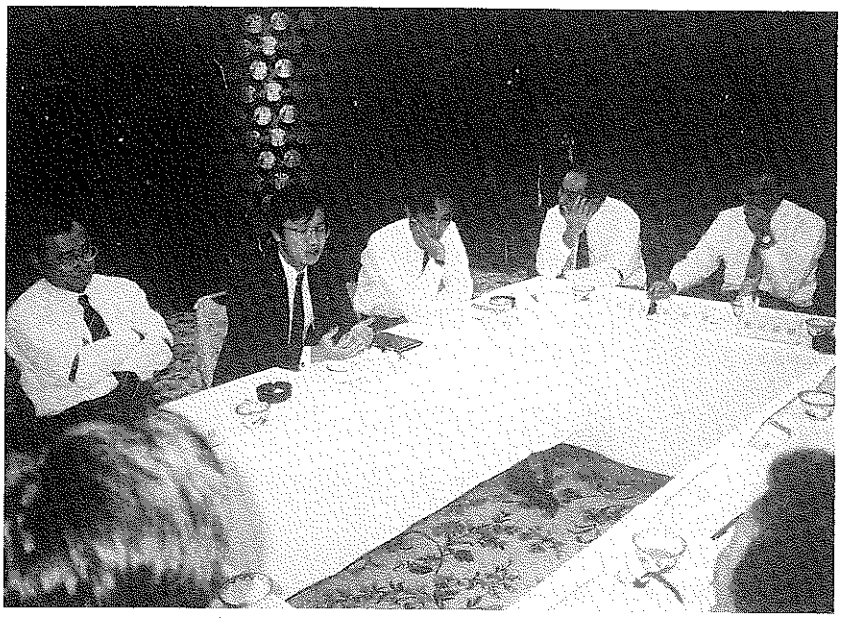
25周年記念大運動会開催

5月16日（日）25周年記念事業の一環として、会員、ＯＢおよび家族の総勢約250名による大運動会が開催されました。快晴の絶好の運動会日和のもと、アメ食い競争、パン食い競争、綱引き、応援合戦、騎馬戦、グループ対抗リレー等のゲームをくりひろげましたが、赤、黄、ピンクの3チームに分れての総合得点争いは、会員開発、特別事業、青少年育成、国際の各委員会からなる黄チームが他を大きく引き離して優勝しました。熾烈な競争の中にも笑顔と笑い声のたえない和やかな雰囲気に、会員間の親睦も一層深まりました。

社団法人長崎青年協会25周年記念座談会

地域社会と青年団体活動のありかた

平成5年11月4日、新地町京華園において、これまでお世話になった関係諸団体の皆様をお迎えして、地域社会と青年団体をとりまくことがらについての座談会が開催されました。当日は、出席者の方々の熱い想いがひしひしと伝わってくるたいへん充実した座談会となりました。ここには、その要旨をとりまとめて掲載します。なお文章化にあたり発言の趣旨を損わないよう配慮しましたが、掲載文は発言者のことばどおりではないことをおことわりします。



御出席いただいた方々（五十音順　文中敬称略）

青　嶋　秋　男　様　（長崎市教育委員会社会教育課社会教育主事）
鬼　永　　武　様　（長崎歴史帆船協会事務局長）
多以良　光　善　様　（長崎市企画部文化国際課国際交流係長）
鉄　川　　進　様　（長崎青年会議所副理事長）
土肥原　弘　久　様　（亀山社中ば活かす会幹事）
野　田　恵　子　様　（ドリームハート長崎）
松　田　祥　吾　様　（長崎商工会議所青年部企画担当副会長）

長崎青年協会からの出席者

森　　保　博　君　（会長）
渡　辺　秀　孝　君　（総務担当副会長）
桑　田　啓　伍　君　（25周年担当理事）
岡　村　一　憲　君　（監事）
金　田　芳　裕　君　（事務局長）
永　田　吉　朗　君　（総務委員長：司会）

1．福祉と青年団体活動

(多以良)　障害者福祉というと、自分が生きているところとは別世界のようにとらえがちです。しかし中にはいってみると、一般の社会となんら違いがありません。私が福祉にかかわる仕事を始めたころは肩に力を入れて、何かをわかりたい伝えたいと思っていましたが、やがて福祉は1対1の人間のつきあいであることに気付きました。これまでとは違った人達が福祉の中に入ってきてくれたという意味で、青年協会がふうせんバレーに取組んだことを、とても嬉しく思いました。

野田　恵子 様

(野田)　障害者には、スーツ姿の集団とつきあう機会が少ないのです。私たちドリームハートのメンバーは、その雰囲気に圧倒されましたが、勉強にもなりました。

(鉄川)　青年会議所は、肢体不自由児の遠足のお手伝いをしています。その際にメンバーに言っているのは、福祉はけっして一方的に奉仕することではなく、むしろ教えてもらうことの方が大きいということです。子供たちと1日接しているときれいな目に心が洗われる思いがしますし、生きることの尊さを教えられます。互いに影響を与えあうことが福祉だと思います。

(松田)　福祉については、いろいろ考えることがあります。体験主義でいいのだろうか、特定の団体だけとのつきあいでいいのだろうか、かといってあまり多くの団体と交流する余裕はない等です。

(多以良)　福祉は互いを知り、ともに生きる社会をつくっていくことが基本ですから、あまり深く考えすぎないで、体験主義でいいからまずふれあってみるといいんじゃないでしょうか。

(野田)　ふれあいを大切にしたふうせんバレーボール大会で私たちは大きな自信を得ました。青年協会の人ばかりに動いてもらうのは悪いからと思って手伝っているうちに、やってあたりまえになり、自分たちもやれることに気付きました。これからも大会をいっしょに続けてもらいたいと思っていますが、何年か後に青年協会が抜けるようなことがあったら、自分たちだけでもやってみようという気持ちをもつことができるようになりました。大会も大成功でしたが、自信という力をもらったことが、今回の大きな成果でした。

(土肥原)　青年協会はどういう発想でふうせんバレーに取組むことにしたのですか。

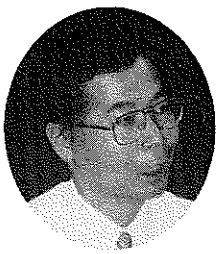
桑田　啓吾 君

(桑田)　25周年記念事業として福祉関係のイベントをなにかやってみようという会長の意向はあったものの、準備の時間があまりなかったので考える前に走りだしたのが実情です。

(土肥原)　青年協会には「やってむうで」という人が多いからいいですね。

(多以良)　福祉が進んでいるといわれるヨーロッパは、街のハード自体は古い石造りなので必ずしも障害者の行動にあわせて整備されているわけではありません。しかし人々の行動が、弱者が生きていける状況をつくっています。障害者が道路の横断に困っているのを見た健常者が、「道をわたるんですね」と気軽にあたりまえに手伝う文化があります。一方日本では、障害者の手伝いをしようという気持ちはあっても、やりかたがわからないという意識が先に立ってしまうために尻込みして何もできない人が多いです。青年協会の人は、ふうせんバレーボールのなかでその垣根を取り除く体験をしたのですから、これからもっともっとふれあいの輪を広げていってほしいと思います。

2．青少年育成


青嶋　秋男 様

(青嶋)　老人ホームでのもちつき大会や子供たちをつれての伊王島宿泊体験セミナーにみられるように、青年協会の活動には「世代間交流」というキーワードがあるようです。また、1年間の青少年育成事業に、何を学ばせるかについて一貫性があることもすばらしいと思います。現代の子供たちに学ばせたいのは、問題を発見する力だと私は思っています。問題と解答を与えられることなしに何が自分に必要なのかを発見するには、失敗の体験が必要です。青年協会は、田植や稲刈り、宿泊体験によって、

子供たちに失敗の体験の機会を与えています。初対面の人たちと不安感の中ですごすことで、子供に自信が生まれます。また、長崎の子供たちが伊王島や長与の子供たちとふれあい、友達の輪が広がっていくのもすばらしいと思います。たいへんでしょうが、これからも毎年続けて下さい。

（土肥原）　私たちが子供の頃には、近所のこわいおじさんから怒られながら教えられたことがありましたが、今の子供にはその機会がありません。私たちが、よその子をしかることのできるおじさんにならなければと思います。

鬼永　武 様

（鬼永）　船の上では、命を預かっているので悪い子はどんどんしかります。子供に関して私は、あいさつのできない子が多いことが気になっています。ある福祉施設の人たちに船に乗ってもらう機会がありましたが、乗下船の際に60人全員が１人１人あいさつをされたのに感動しました。これに比べて一般募集の子供たちは、何のあいさつもせずあたりまえの顔で船に乗ります。このことは、我々の年代に親としての責任があるのでしょうが…。

（鉄川）　子供の集団の世話をしているときに、指示をしてリードする人がいないと収拾がつかなくなります。現実にそれをしっかりできる人は少ないので、青少年育成といいながら私たちの学ぶ場でもあるわけです。

３．外国とのかかわり

（松田）　国際交流についても、福祉と同じで機会あるごとに自らとびこむことが必要と思っています。自分の普段の生活の中で外国人とふれあうことが望ましいのですが、青年団体のメンバーに関していえば、自分の子供が小さいためにその余裕がないのが実情だと思います。その点、国内に来ている留学生のショートステイをひきうけることは、負担が少ないのでおすすめできます。私もやっていますが、家族が皆楽しみにして次の機会を待つようになっています。

鉄川　進 様

（鉄川）　青年会議所では、弁論大会を５年間やっています。出場する留学生と話をしてわかるのは、彼らが日本人との会話に飢えていることです。学校の中はともかくとして一般の社会人と話す機会がほとんどない

らしいのです。また、留学生は滞在期間が短かくて深いつきあいがしにくいので、今後は長崎に根をおろして生活している外国人との交流を考えたいと思っています。

（青嶋）　成人式では外国の人にとてもいい話をしてもらっているのですが、肝心の長崎の若い人が聞きに来てくれないのです。

（松田）　子供が多感な中学生くらいまでの頃に、外国の人に接する機会があるといいのですが。私はこれまでに50人くらいの留学生の短期滞在を受け入れていますが、住宅環境を気にせず、汲み取りトイレでもそのままを見せるというつもりでやってきました。預かった人とは家族ぐるみのつきあいが続いていて、子供どうし毎年交互に訪問しています。こういうのが本当の国際交流ではないでしょうか。

（鬼永）　私も、オランダのライデン大学の学生を半年間滞在させたことがあります。彼が帰ったらさびしくなってオランダまで会いに行きました。本当の友だちができました。

（青嶋）　日常レベルでのつきあいができるようになることが、本当の国際化だと思います。その意味で留学生のつどいは、再検討の余地があるのではないでしょうか。内容をもりだくさんにしすぎるために青年協会会員が裏方に徹さなければならない状態よりも、会員と留学生がふれあう余裕をつくる方が良いと思います。それをきっかけとして個人レベルのつきあいが始まることを期待します。行政としても、イベントだけではなく草の根の交流にも目を向けていくべきだと思います。

4．街づくりについて

松田　祥吾 様

（松田）　街づくりについては青年が、ハードソフト両面に関して積極的に発言し活動しなければならないと思います。こと街づくりに関しては、市民である以上死ぬまで取組まねばならないわけですが、せめて50歳くらいまでは青年団体を卒業しても活発に活動すべきです。長崎にとって経済効果があり住む人にプラスになる街づくりに、責任のある年齢の人たちが責任のある発言をしていかなければならないのです。たとえばアーバンルネッサンスについても、個々人では真剣に考えている人がたくさんいますが、グループとして責任ある発言をしているところはないようです。

（鉄川）　都市開発について考えている人は多いので、我々はそれを論議する場をつくっていく必要があると思っていますし、行政にもそうしてほしいです。20年30年先の長崎の絵を描くには、我々が今始めなければならないのです。青年団体には、社会的な力があります。力を持った団体は、街のためにその力を行使する使命があります。

（森）　街づくりについては、各団体が集まって話し合い、その中でいいものをみつけていくことが必要と思います。

（松田）　県は、アーバンルネッサンス計画で県外のコンサルタント会社に多額の報酬を支払っていますが、その10分の1の金額でいいから市民に発言させるための予算をつけてはどうでしょうか。稚拙であっても、自分たちの街についての住民の視点を出していきたいのです。

（多以良）　街づくりの前提として街を知ることが不可欠だと思いますが、はたして自分の街をどれくらい知っているでしょうか。たとえば鍋冠山から見る朝陽の美しさをどれほどの人が知っているでしょうか。青年団体は、そのエネルギーを使って街を知る活動を始めてもらいたいです。

（鬼永）　長崎にはせっかく港があるのに街づくりに活かされていません。港の周辺に1個のベンチも置いてありませんし、松が枝の埠頭も市民のいこいの場としては非常に使いにくい。大規模な開発をする前にすぐにでもできる街づくりがあるのだということを行政にも市民にも知ってもらいたいと思います。

土肥原弘久 様

（土肥原）　人と人とのつながりが、街を良くしていく力になります。そのためにもぜひ今後も仲よくして下さい。

（松田）　次の街づくりをしていく子供たちを、長崎の街に誇りをもつことができるように育てることも必要です。長崎のすばらしい裏通りを見せることで、次の長崎っ子をつくる

のです。ウォークラリーはその格好の場なので、各地でばらばらに実施されているものをとりまとめて活性化していく活動をすると良いと思います。

（青嶋）　学校教育の分野でも、地域に根ざした教育が提唱されてきています。実際に小学校に生活科が設けられ、学校周辺を見て回ることが始まっています。今までの知識偏重からぬけ出し始めています。青年団体活動に話を戻せば、長崎にネットワーク市民の会があるのは、すばらしいと思います。団体間の連携組織は、他の地域にはないものです。各団体の力を合わせていけばさらに大きな力になります。その力を、長崎の街づくりに活かしてほしいと思います。

5．青年協会に望むこと

（野田）　来年も一緒にふうせんバレーボール大会をやって、そして毎年続くようにしてほしいです。そしていずれは自分たちだけでできるようになりたいと思っています。

（松田）　青年協会には、エネルギーを感じます。しかし、これからは体を動かし汗を流すというプロセスとともに経済効果も考えてみるとよいのではないでしょうか。各青年団体や自治体が実施しているイベントも、ここらで整理統合を図らないと青年団体が活動力として引っぱり回されてしまうことになります。整理した形で合理的にジョイントベンチャーをやっていきたいと思います。

（鉄川）　経済状況は厳しいですが、だからといって我々が黙っていると長崎が沈滞してしまいます。青年会議所と青年協会は、ライバルであるとともに仲間だから、互いに影響しあって力を合わせていきましょう。街のために力を活かし、街づくりに青年の意見を入れるために協力していきましょう。

（鬼永）　私たち歴史帆船協会は、港と船にこだわりながら、海からの視点で街づくりにかかわっていこうと思っています。よく体を動かして汗をかくという点で、青年協会と私たちは似ています。船を通じてのひとづくりを一緒にやっていきたいと思います。

（土肥原）　青年協会には、青年団体の中でも特に、いろいろ言う前に先ずやってみようという気質があるという点に個性を感じ、さわやかな印象をもっています。今後もその個性を活かした活動をして下さい。亀山社中ば活かす会は、歴史をテーマとして活動していますが、歴史に関する情報交換をすることもできるし、ほかにもネットワーク市民の会を通じていっしょにやっていくこともあるでしょう。街で出会ったらあいさつをかわす仲間ができることからよい街ができていくと考えています。

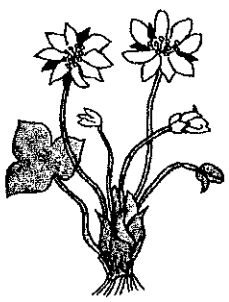
（青嶋）　世代間交流の視点は他にはないと思うので、その特色を活かした活動を続けて下さい。内部の葛藤はあるでしょうが情熱で乗りきって、ますますよい事業をされることを期待します。

多以良光善 様

（多以良）　青年協会のまずやってみてから考えるバイタリティーに感心しています。そのバイタリティーを忘れては青年協会の存在意義がなくなります。なべてスマートに考えることなど決してせずに、バイタリティーを持ち続けて下さい。

森　保博 君

（森）　私たち青年協会の会員が先輩から受け継いできたものは、結果はともかくとして事業の過程で共にいい汗をかくということです。25周年を迎える中で少しずつ成長し、このような対談をすることができるようになりました。しかし、体育会系的野武士的感覚は、忘れたくありませんし必ず残していきます。皆さんとはこれからも一緒に汗をかかせてもらいたいと思います。本日は、貴重な御意見をいただきどうもありがとうございました。



年末の恒例「もちつき」開催

平成5年12月5日(日)
於：女の都　老友荘

去る12月5日の日曜日、青年協会の師走の恒例行事「もちつき」が女の都の老人ホーム「老友荘」で行われました。今回は、なるほどセミナーとしてではなく、会員の家族・子供達にもちつきを体験してもらおうという企画でした。

8:40集合、8:50開会式の後、9:00よりもちつきが開始されました。残念なことに天気予報とは裏腹に時折冷たい雨の降る天候でしたが、何本も杵が折れるほど一生懸命に？もちをついていると寒さもどこへやらという感じでした。

もち米を蒸す事は老友荘のお年寄りの方達と会員、臼と杵でつきあげるのは会員で、ついたもちにあんをいれたりして丸めるのを会員の奥様方と老友荘のお年寄りの方達というふうに分担し、子供達はそれぞれの仕事を手伝うという終始和やかな雰囲気の流れ作業で、もちつきは行われていき、気温が低かったせいか蒸すのに若干時間をとられていましたが、早朝より担当の青少年育成委員会の準備した60kgものもち米を約3時間で、無事につきあげることができました。また、もちを蒸すあまり火で焼いた「やきいも」も好評だったようです。子供達も、お父さんと一緒にもちつきをしたこと、お母さんと一緒にもちを丸めたことなど、いい思い出になったことでょう。

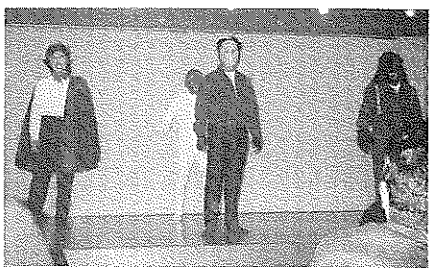
お昼には、老友荘の方達が用意した、毎年これが楽しみだと言う会員もいるほど好評の「豚汁」と「おにぎり」、そしてつきたての「ゆとりもち」をみんなで仲良く食べました。

最後に合六委員長が、本年度の青少年育成事業を全て終えたことを報告し、ならびに会員の協力に対して感謝の言葉を述べ、みんなで記念撮影をして閉会式としました。

『忘年懇親会』開催

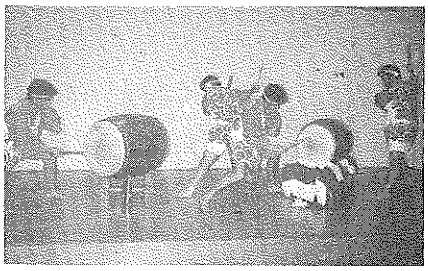
平成5年12月5日(日)
於：京華園

12月5日（日)、恒例の忘年懇親会が開催されました。ミニ例会に引き続き、ＯＢ会の三浦勝太さんの挨拶の後、会員担当副会長の井上章君の乾杯の音頭で、忘年懇親会が始まりました。約30分後、お待ちかねの隠し芸大会の始まりです。今回は12の各委員会が、隠し芸を披露しました。まず会員交流委員会がトップバッターで始まり、最後の地域事業委員会までおよそ1時間ほど行われました。今回は前年度よりは、おとなしく控えめだったようですが、各委員会、試行錯誤をして練習を積んできた委員会もあれば、ぶっつけ本番の委員会もあったようで、多種多様な隠し芸があり盛り上がった時間でありました。



第1位

採点はＯＢと協会理事合わせて9名の方々で行われ、見事優勝をさらったのは研修委員会のスリラーでした。2位には地域事業委員会の祝い太鼓、3位には広報委員会の竹の芸が入賞しました。また地域事業委員会の梁瀬億則君が見事ＭＶＰを獲得しました。最後に笑いと感動の忘年懇親会は25周年担当理事の桑田啓伍君の万歳三唱で幕を閉じました。



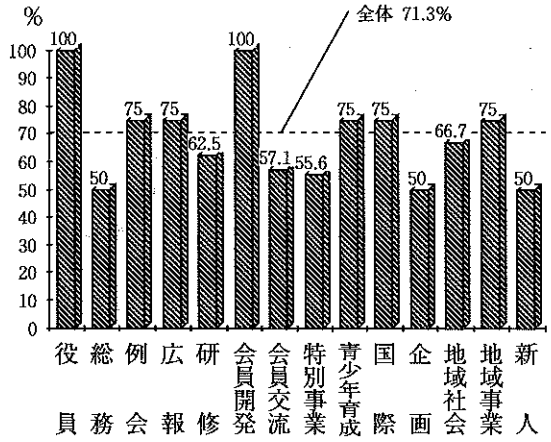
第2位

☆NYA information☆

Committee for Regular Meetings
例会委員会

1月21日（金）は、社団法人長崎青年協会25周年記念式典を開催致します。今回は、会員・OBおよび家族の皆様により、アットホームな雰囲気で25周年を祝う記念式典となっています。皆様のご出席およびご協力を宜しくお願い致します。

忘年懇親会出席率



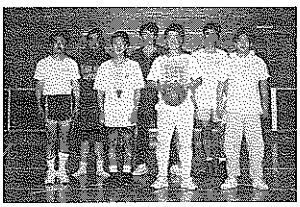
International Affairs Committee
国際委員会

今年度3回目を迎える海外研修は、ソウルのふうせんバレーボールチームとの交流の為、韓国に決定致しました。オプショナルツアーとして、ベアーズタウンスキーやロッテワールドも用意していますので、ご家族のみなさんで、ふるってご参加ください。

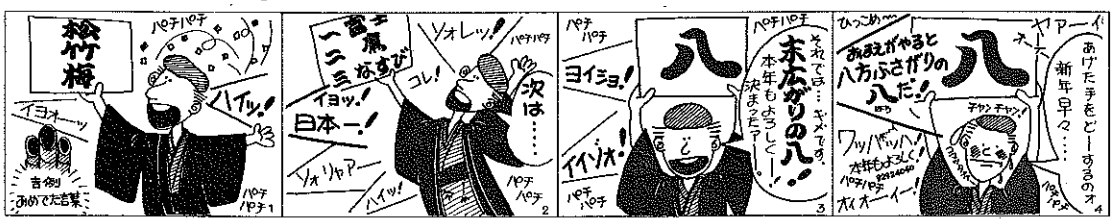
日　　程　2月25日(金)～27日(日)
ホ テ ル　ソウルプラザホテル又は同等クラス
費　　用　5万円程度
申込〆切　1月21日（金）

Basket Ball
バスケットボール同好会

バスケットボール同好会では、毎週火曜日、土井ノ首中学校にて、午後7時から9時まで行っています。今年は、試合をどんどんやって行こうと思っています。新しいメンバーの参加は大歓迎です。みんなで絶対来てね！



ばってん君「新春めでた言葉?!」



☆長崎プリンスホテルポケットパーク　1991都市景観賞（表紙説明）☆

■選定理由

敷地面積の22％を一般市民の利用に供する公開空地とし、道路の歩道部分と一体化したポケットパークにかなり大きめの植栽や、現代的にデザインされたバス待ちのベンチを配している。そこは、人々にとって喧噪の中の安らぎの空間である。

■長崎プリンスホテルポケットパーク

用　　途／公開空地
敷地面積／4,846.51㎡
実公開空地面積／1,052.23㎡
写真提供／長崎市都市景観賞表彰実行委員会

社団法人長崎青年協会会報　第175号　25周年記念新春特別号　1994年1月1日
編集／総務委員会 総務委員長 永田吉朗・広報委員会 広報委員長 伊藤克樹